

# 第三十回宮柊二記念館全国短歌大会入選作発表

## 《一般部門》

選者賞（久々湊 盈子選）

羽衣はたんのすの奥にしまひ込み妻はそのままが側にゐる

林 建生（愛知）

選者賞（鈴木 竹志選）

飛びとびで小屋番すれば飛びとびに花が移りぬ越後駒ヶ岳に

磯部 剛（新潟）

魚沼市長賞

鳥渡るダム湖豊かな弧を持つも離散の悲話を村史に残す

請関くにとし（埼玉）

新潟日報社賞

わたくしは昭和原人キャッシュユレスの進む時代を漂いており

添島貴美代（愛知）

宮柊二記念館長賞

真夜の湯に真つ赤な林檎りんごを浮かばせて泣くだけ泣いた乳房切

除 麻生みち子（京都）

しゃわしゃわと桑葉を食ぶるお蚕の冷たき背なが手に残りの

し 穂苜 真泉（長野）

介護とは遠い者勝ち何もせずたまに帰れば歓待されて

祖父ちゃんが二階だと戻りしガキ大将二度目の津波に吞まれ  
帰らず 園部 淳（愛媛）

古くても壊れていてもいいのなら俺も回収していつてくれ

濱岡 学（京都）

川の面おもを水切り飛び跳ね沈みゆく小石でありし若き日われは

篠崎 俊二（神奈川県）

真夏日の市場の外に立つポストは西瓜の絵手紙がふりと食べ  
る 岸下 澄江（鳥取）

秀逸（一）

うす青き空にふうはり昼の月楮の紙の切絵のやうに

宮澤 民子（新潟）

歌人とは知らず杖つきひげづらの柊二先生の案内をしたり

土田 淑（新潟）

足指に藁をはさみて縄を緬なふ雪降る夜の父の鼻歌

佐藤 昇（愛知）

チロチロと微かなゆばりの音流れ妻の命の調べと聞きぬ

弓田 博（千葉）

古時計に螺巻く如く気を入れて腰さすりつつじゃが芋植うる

山本 美代(新潟)  
数独と格闘しをる連れあひの肩には文鳥首折りて眠る

斎藤 斌(新潟)

秀逸(二)

進む道野球か将棋か悩む暇あれば宿題早くしなさい

樋口 勉(和歌山)

枯れ芦の中に横たふ釣舟は水の記憶を抱き朽ちゆく

桑田美智代(熊本)

ひこうき雲いくすぢ走るファスナーが春ひらきゆくみちのくの空  
島山みな子(宮城)

手書きなる文字はそれぞれ人のかほ癖ある顔に端正な顔

木立 徹(青森)

元気なうちに会いましょうと亡き夫に同窓会の案内の来る

莊司 幹子(埼玉)

殺し合いやつてる時かどうするの猛暑早魃山火事洪水

北條 忠政(東京)

無人駅降りて眺める故郷は一八〇度変わらぬ景色

いとうみきお(新潟)

牛小屋の画像認識AI機が個の発情を示して知らず

向井 洋一(大阪)

夕暮れの改札口に娘を送り独りの日常つれて帰ゆく

藤島眞喜子(埼玉)

亡夫の鍵につけいし小ぶりの金の鈴木無月の忌日をかすかに知らず

石川 芳江(千葉)

「絆」とう糸偏の糸の切れしまま兄は逝きたり会うこともな

寺岡 徳雄(広島)

庭隅の鉢動かせばその下にしどろもどろとなるダンゴムシ

白藤 巳玲(埼玉)

残雪を平に削りへりを待つ春一番の山小屋の荷上げ

磯部 剛(新潟)

「息してる」妻は毎朝声かける脳梗塞後生きる糧かな

吉本 雄二(東京)

三十年振りの教へ子からの招待状密かに手にしわれ入院す

遠藤 和暢(宮城)

甥っ子はリュック背負ひてふる里へ嫂の遺骨を運び来たりぬ

南雲 悦子(新潟)

引退の一升炊きの炊飯器このほど復帰す孫ら育ちて

大賀 康男(愛媛)

アポ無しで古里の友訪ねれば笑顔で上げて茶菓子まで出す

いとうみきお(新潟)

椎に盛る飯を見つむる目のかなし紙塑人形の有間皇子は

黒岡美江子(千葉)

アルバムの笑顔の吾を引き剥がすあの頃無理に笑ってたんだ

木下 菊代(千葉)

「なんでやねん」不意にわき出る大阪弁 乳房のひとつが失せ

富岡 悦子(静岡)

美谷院は過ぎし介護の十余年われが心を保ちしところ

平澤恵美子(新潟)

母おらねば上野地下道に居たかもと朝ドラ観つつ夫つぶやく

石原 洋子(埼玉)

「ぼこさま」と呼びし蚕に春蚕あり秋蚕もありて母は育てき

五十嵐トシエ(新潟)

色白も茶髪ものつぽも打ち揃い掛け声たかく山車を曳きゆく

梅沢 佳子(静岡)

振り向いて「父さんごめん」とつぶやいて昭和の家の解体決める

佐藤 一央(静岡)

《ジュニア部門》

小学生の部

最優秀賞

目があうとにっこりわらう赤ちゃんはずっとまってるたほくの弟

高橋 結良(魚沼市立広神東小学校)

選者賞(久々湊 盈子選)

夏休みプールの水が冷たすぎほくの口びるいつもむらさき

渡辺 悠月(魚沼市立湯之谷小学校)

選者賞(鈴木 竹志選)

ほくじゅうのにおいってばいすいこんで「今日も集中!いい字を書くぞ」

瀬下ゆいか(魚沼市立湯之谷小学校)

魚沼市長賞

夏休み、パパと虫とり、でかけたよ、ほくよりひつしな、大きな子ども

櫻井 潤紀(魚沼市立湯之谷小学校)

新潟日報社賞

尾瀬の夜まつくらやみにみなはしゃぐひかるシカの目「ギギ」とりの声

酒井 勇菜(魚沼市立須原小学校)

宮校二記念館長賞

図書館は夢がいつぱい本の森表紙をめくって本の世界へ

谷澤 愛恵(長岡市立阪之上小学校)

なすきゅうりかぼちゃにトマトしそすいかうちの畑はしんせん市場

星 快心(魚沼市立湯之谷小学校)

まだ咲かぬ朝顔ながめじつと待つ遅咲きなんだきつとほくもだ

星 時仁(魚沼市立湯之谷小学校)

つゆの時期田んぼ見ていたほくとさぎじつと見つめるみどりのいねを

木皿光乃助(魚沼市立堀之内小学校)

入学しブカブカだったランドセルきつくなつたよ卒業近い

佐藤 尚悟(魚沼市立湯之谷小学校)

はらを決め反対おし切り丸ぼうず野球少年にはくはなる

中澤 律(魚沼市立広神東小学校)

お日様のあついしせんが降りそそぐ私の顔はまつ赤なトマト

櫻井 未来(魚沼市立湯之谷小学校)

夏の海でかくて長い流木にのってぶかぶかわたくしクラゲ

上村 颯希(魚沼市立湯之谷小学校)

木の上でみつにむらがるかぶと虫よろいみたいなさうびをきて

吉川 椋(長岡市立福戸小学校)

秀逸

ほくがねてもあしたにならないたいようがねたからあしたになつたよ

西多 晃都(鴻巣市立鴻巣中央小学校)

ぎおん祭たいこの音にちようちんがおどって私の心もおどる

小宮山維織(上越市立直江津南小学校)

ハシビロコウずつとこつちをにらんでるまるで何かを語るかのよう

白井 智広(新潟大学附属新潟小学校)

やまばとが、ほうほうないた、夏休み一人で行くよ、ラジオ

体そう 井口 宗哉（魚沼市立小出小学校）

ひげもじゃのとうもろこしの皮をむく中はキラキラ黄色いダイヤ 松田 彩聖（魚沼市立広神東小学校）

冬の外かわいい笑顔が増えてくるにっこり笑顔の雪だるまたち 八海みなみ（魚沼市立伊米ヶ崎小学校）

ひまわりを三つうえたよ二つかれのこりは一つだおおきくなあれ 古田島遙馬（魚沼市立堀之内小学校）

流れ星なかなか決まらぬ願い事決めたしゆんかん流れて消えた 小宮山一止（上越市立直江津南小学校）

夏の尾瀬石も左も大自然二ツコウキスゲオゼイトンボ 佐藤 芽咲（魚沼市立須原小学校）

ほとけのゆめ消防士だよがんばるぞかなえるためにまいにちべんきょう 酒井 翔矢（魚沼市立湯之谷小学校）

きょうだいで育てたきゅうりつるのびて黄色い花がたくさん 小澤 叶夢（魚沼市立堀之内小学校）

さいた あの木にも虫のぬけがらついでいる夏の空へとたびにでたのか 櫻井 冬也（魚沼市立広神東小学校）

ランドセルにもつっぱいおもたいたミントグリーンのすきないろ 和田 瑛茉（魚沼市立湯之谷小学校）

夏の風ふうりんたちがさわいでるスイカをたべてタネふきとばせ 井口ひなた（魚沼市立小出小学校）

黙とうする人々を見て知ったのは悲しい歴史八月六日 小宮山一止（上越市立直江津南小学校）

平泳ぎ手と足合わせ顔をだしたタイムをちぢめ自分をこえる 片元 凜喜（光市立高田小学校）

なみのおとかもめのなき声ふねのおともぐつてみたらおとな

いせ界 海發 新（小千谷市立小千谷小学校）

あこがれの応えんリーダーがんばるぞハッピー ハチマキ チームのみんなと 安部 心絆（小千谷市立小千谷小学校）

ワタスゲとタケシマランの尾瀬の道私の白い恋人達ね 山田ののか（魚沼市立須原小学校）

弟が毎日かわいいどうしようがいじでもかんけないない 大羽智香音（魚沼市立広神東小学校）

夏の夜推しの配信十時から人生初のファンサゲツト 伊藤 うい（魚沼市立小出小学校）

夜ごはんおばあちゃんの夏野菜きゅうりにトマトやっぱりうまい 星野さくら（魚沼市立湯之谷小学校）

ならいごと書道教室楽しいなはねるところはゆつくりと書く 井口 栞里（魚沼市立堀之内小学校）

お母さんと育てたわた花何日かたつてできたよコットンボール 滝沢 咲耶（魚沼市立堀之内小学校）

### 中学生の部

選者賞（久々湊 盈子選）

夕ご飯空いてる席は予約済み時々帰る姉貴のために 上野 菜々（長岡市立大島中学校）

選者賞（鈴木 竹志選）  
水の色木々の変化はいつもちがうそれが私のふるさとの土手

魚沼市長賞 関 優希（魚沼市立小出中学校）

コンチエルト僕を掠める音の粒十九世紀のワルシヤワの旅

新潟日報社賞

小林 斗和 (慶應義塾普通部)

友達は推しとかコスメに夢中だが私の頭ははてなでいっぱい

木村 江里 (新潟県立燕中等教育学校)

宮柁二記念館長賞

夏休み課題を始めてはや二分やる気をなくした俺かたつむり

本間 弥李 (新潟県立燕中等教育学校)

吟味して一冊にしほり司書さんへ「お願いします」本との出会  
ゆつくりとページをめくり、目を落とす、古き書物愛を愛でる

高橋 優花 (新潟県立燕中等教育学校)  
松永 ゆう (長岡市立南中学校)

晩秋。十二年伸ばした髪をばつさりと自由に弾むころと緑髪

堀越 優花 (中央大学附属横浜中学校)  
星 莉子 (魚沼市立湯之谷中学校)

夏の空朝は快晴夜は雨降り空はいつでも情緒不安定  
マレットのおもみはきつと忘れないひと夏だけのパークツシ  
ヨンド

大崎 琴葉 (長岡市立秋葉中学校)  
磯部 煌太 (魚沼市立小出中学校)

庭にはる小さなプールすっぽんぽんではしゃぐ弟我が家の太  
陽 安藤 仁 (慶應義塾普通部)

道端で黄色く陽気なカタバミの影でも目立つ優しい輝き  
岩松 玖真 (中央大学附属横浜中学校)

秀逸  
夏祭りわたあめラムネりんごあめ屋台に並ぶ甘い誘惑

夏帆 (中央大学附属横浜中学校)

大ばあば手押し車で歩いてる よつとこよつとこ声掛けながら  
小節は始まったばかり今はまだやがて重なれ僕らの音色

原田 紗彩 (中央大学附属横浜中学校)

週末もあつという間に日曜日時間のかけらがぼろぼろ落ちる  
部活中ひざのじんたい負傷した母の手ぬくく包帯きつく

原 秀彪 (新潟市立寄居中学校)

ヤシの木の長い影踏み帰る道ロス留学のサマーメモリー  
眠れない夜に気がつく冷蔵庫いつも静かに歌っていたと

藤田 隆矢 (慶應義塾普通部)

広い空遠くを見ても見えない夢一步踏み出す勇氣はあるか  
小泉 瑠和 (小千谷市立南中学校)

瓜を見て思い出される祖父の味千葉の畑は今もあるだろうか  
西山 翔 (慶應義塾普通部)

盆踊り幼馴染と再会す身長のびても中身は同じ  
三橋 永暉 (慶應義塾普通部)

青空に鮮やかな色サルスベリ猛暑の夏に天高く咲く  
新谷 亮太 (慶應義塾普通部)

夏の夜たたずむぼくと天の川どうでもよくなる悩みごとなど  
高橋 蒼来 (魚沼市立小出中学校)

お気に入りの白いハンカチ持って行く海辺を飛んだカモメが  
盗った 高橋 結衣 (岩沼市立岩沼中学校)

刻々と刻まれていくひとときは二度と戻らぬわたしのかけら

柿崎 悠介 (岩沼市立岩沼中学校)  
海に行き浜辺で光る貝がらを土産に一つ拾って帰る

鹿島 永季 (新潟県立燕中等教育学校)  
合宿で疲れた夜に顔上げた空には夏の三角

久保田夏葵 (中央大学附属横浜中学校)  
書き終えた喜び束の間筆を換え震えおさえて名前を入れる

奥川雄太郎 (慶應義塾普通部)  
言葉にはいつも魔法がかかっている時に苦くてきれいなものが

富所 葉音 (魚沼市立小出中学校)  
チャリ乗って田んぼを回るおじいちゃん田圃警備おつかれ様

井口 璃乃 (魚沼市立小出中学校)  
十一時アプリを開き待機する昔と違うラジオの聴き方

手塚 朱梨 (塩尻市立広陵中学校)  
レシートをすばやくとって店を出る買った小説心踊らせ

井上 采 (新潟県立燕中等教育学校)  
はじめてのサップに乗って波の上イルカのようにすいすい進

丸山しずく (小千谷市立南中学校)  
ああ今日か。「さよなら」なんて言ってみる書きこみだらけ

の楽譜見つけて  
難波 聡美 (私立創価中学校)  
個人練パート練からセクシヨン練ついに合奏力を注ぐ

秋村 麻莉 (中央大学附属横浜中学校)  
フルーツにひまわりの種大きくなるみなんでも入るよぼくは

ハムスター  
瀬戸口彩加 (中央大学附属横浜中学校)  
美容室「天気がいいね」「そうですね」あ、やばいこれ会話

ネタ切れ  
阿部 珠希 (長岡市立大島中学校)

### 高校生の部

#### 最優秀賞

天使みたいばあばはいうけどほんとはねばあばの前だけ天使  
になるんだ  
須藤菜々花 (神奈川県立湘南台高等学校)

#### 選者賞 (久々湊 盈子選)

初夏の朝ペーパーミントの風通るテニス部員の半そでの白

鈴木 悠真 (長岡工業高等専門学校)

#### 選者賞 (鈴木 竹志選)

覚悟決めの前に立ち息を吐くプレッシャーさえ矢に乘せて射  
つ  
池知夕季絵 (神奈川県立七里ガ浜高等学校)

#### 魚沼市長賞

真夜中の流星群に魅入られて色どられてく記憶の記録

星野ひゆう (新潟県立小出高等学校)

#### 新潟日報社賞

順位死守定期試験の様相はノルマンディーのドイツ軍なり

本間 蓮 (長岡工業高等専門学校)

#### 宮柵二記念館長賞

夕焼けに染まるトラック駆ける影上へと続く道を信じて

山川 航平 (神奈川県立七里ガ浜高等学校)

アメリカの歴史が動く可能性打ち破れるかガラスの天井

新明 友優 (神奈川県立七里ガ浜高等学校)

旧友と昔に戻る一日は工夫次第でおうち縁日

栗原 朱里 (神奈川県立七里ガ浜高等学校)

御食国食材豊富な淡路島祖父母と楽しむ夕食の膳

荒井 梨桜 (神奈川県立七里ガ浜高等学校)

臆病な自分を鼓舞して滝壺へ過去の自分に別れの合図

駒形 優和 (新潟県立小出高等学校)

英和辞典母からもらったページには母の青春書き込みがある

須田 啓介 (東京学館新潟高等学校)

ばあちゃんに話しかけてるじいちゃんへの愛は変わらぬガラス

柳川 真穂 (神奈川県立湘南台高等学校)

越しても  
鴉色トビに暮れてゆく空懐かしいあの秋の空にまた出会えたら

浅海 亜優 (神奈川県立座間総合高等学校)

イヤホンを二人で分けた好きな曲今でも君との始まりの歌

丸山美利愛 (新潟県立十日町総合高等学校)

### 秀逸

異常気象戦争内戦大地震地球温暖化呼吸困難だ

小林 陸 (長岡工業高等専門学校)

ばあちゃんが裁縫道具準備したいやいやそれはダメーレジ  
ンズ 富樫 璃桜 (新潟県立十日町総合高等学校)

家の裏に誰も知らない絶景あり田んぼの水に映る夕焼け

小泉 雲花 (新潟県立小出高等学校)

こむぎと呼ぶ猫の視線の高さから夏の終りの街を見ている

堀 萌花 (東京学館新潟高等学校)

「あお」と呼ぶ私の犬は6時起き私と同じ時生きている

片岡 紗弥 (東京学館新潟高等学校)

きつくても選手からのありがとうの一言がマネのやりがい

曾我 優花 (新潟県立小出高等学校)

「めんどくさ」「話しかけるな」「こっちくん」反抗期中言

つっていた言葉 服部 修茉 (新潟県立小出高等学校)

シングルスマッチポイント迎えたら「自分ではできる」と三度  
呟く 三原 煌大 (東京学館新潟高等学校)

花火の音なしやぎりの声が交錯し織りなすドラマ片貝まつり

佐藤愛優奈 (新潟県立小出高等学校)

線香で空と繋がる墓参り祖父への思い煙に乗せて

佐藤綾美 (新潟県立小出高等学校)

テスト後の友とカラオケ最高だプリクラ、スタバこれぞJK

星 果実 (新潟県立小出高等学校)

ついに来た今年はいよいよ受験生もう逃げられない真つ向勝  
負だ

立花 芽衣 (神奈川県立湘南台高等学校)

ふと見れば青のクレヨンちびていた絵日記の中閉じこめた夏

中本 百香 (神奈川県立湘南台高等学校)

採点時水兵リーべほくの船端に書かれた答案用紙

濱松 咲也 (長岡工業高等専門学校)

戻らない埋め立てた川消えた虫あの夏の日を記憶の中

石田 悠華 (長岡工業高等専門学校)

夏合宿ホルンを奏でる湖畔にて広がる水の輪音の粒立ち

由川かのん (東京都立駒場高等学校)

ワイパーの取りこぼしたる雨粒の中に溶けゆく信号の赤

今村 一稀 (神奈川県立鎌倉高等学校)

おはようと返さぬ君は動かない光を浴びて育つアベリア

山本 太理 (新潟県立小出高等学校)

たのしみは傍身につけ筆握り本番夢見て黒くなる時

横原 唯依 (神奈川県立湘南台高等学校)

親友と二人で歩く帰り道ふとしたときに声が重なる

小島 初音 (神奈川県立座間総合高等学校)

帰路に就く小さな揺れが心地よい部活終わりの江ノ電の中

高野 樹（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

地区予選三日後に控え松葉杖バットの替わりに振り回そうかな  
林 大智（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

夏の夜真っ暗な空に花が咲くすぐに枯れてはつぼみが開き

村上 愛依（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

窓を開け僕しかいない教室に白南風が吹く快晴の空

佐々木禅二（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

夏合宿帰りのバスで咲き誇るりんごジュースとすっぱい匂い

三嶋 大貴（神奈川県立七里ガ浜高等学校）



## 選者のことば

久々湊盈子

わたしが短歌をはじめて作ったのは高校生の頃。もともとお正月になると家族揃って「百人一首」をするのが恒例であったから、五・七・五・七・七という定型に馴染んでいたせいもあって、たまたま入った文芸部で短歌を知ってからは夢中でどんどん作るようになった。十七歳の時には生意気にも佐佐木信綱先生の主宰する「心の花」という短歌結社に入会。ちよūdとその頃は短歌の世界では伝統的なアララギの写実にあきたらず、もっと自由にさまざまなことを作品にしたいという前衛短歌運動が盛んなときだった。寺山修司や佐々木幸綱、塚本邦雄、岡井隆、春日井建といった歌人の名前を聞かれたことがあるかもしれない。日本の各地でシンポジウムが開かれ、熱心にこれからの短歌はどうあるべきか、といった議論が戦わされていた。高校時代に熱心に一千首を越える短歌を作ったことが結果的にわたしの短歌の基盤になっていると思っっている。石川啄木でも与謝野晶子でも若山牧水でも、もちろん、現代に活躍している歌人の歌でもいいが、好きになった歌人の作品をどんどん読んでみることをお勧めしたい。図書館に行けばいろんな歌人の歌集や全集が揃っている。宮柊二の短歌は初心の間は、やや手ごわいだろうが、いつかは挑戦して、ぜひ読んでいただきたいものと思っっている。



## 選者のことば

鈴木 竹志

長くコスモス短歌会に所属していますが、この度宮柊二記念館短歌大会の選者の任に就くことになり、大変喜ばしく思っています。と同時に任の重さによる緊張感も並大抵ではありませんでしたが、多くの方々から寄せられた短歌作品に励まされて、何とか選を終えることができました。心より感謝申し上げます。

中学生、高校生の応募した短歌の数には大変驚きましたが、五句三十一音の定型を用いてそれぞれの青春を詠んでいるとつくづく思いました。もちろん、舌足らずな短歌、投げやり気味の短歌もありましたが、一つ一つの作品は作った人のものなのです。作った人一人一人の現在が何かしら反映されていることは間違いありません。言葉を用いて表現することの楽しさを感じてもらえたらと思います。

投稿歌の選歌をするとき、私はいつもわくわくします。たくさんさんの歌の中から、私の心に響いてくる歌にきつと会えると感じているからです。今を生きる老若男女の声に耳を傾け、ああそうだなと思える歌に出会うことは本当に嬉しいことです。

私は、短歌を詠むことに行き詰まった時には、宮柊二先生の歌集を読むことにしています。宮先生の短歌を読むと、いつも励まされます。戦中、戦後の日本人がもつとも苦しい日々を過ごさざるをえなかった時代に、宮先生は、兵士として、労働者として、歌人として、本当に真摯に生きてこられ

ました。そのすべてのエッセンスが短歌作品には詰まっています。だからこそ、私たちは、宮先生の短歌によって励まされ、勇気をいただくのです。宮先生の歌集は、岩波文庫の『宮柊二歌集』が手に入りやすいので、今回の投稿を機会にぜひ宮先生の歌を読んでみてください。そして、もつと宮先生のことを知りたくなったら、ぜひこの宮先生の故郷魚沼市の宮柊二記念館を訪れてみてください。

## 第三十回宮柊二記念館全国短歌大会の記

令和六年十一月十六日（土）に表彰式が開催されました。

今年度の選者は、久々湊盈子氏（合歓）、鈴木竹志氏（コスモス）で、一般部門1, 074首、ジュニア部門小学生の部1, 480首、中学生の部4, 187首、高校生の部3, 669首の応募がありました。

学校、学年、クラスにおいて多数の応募があり、優秀な成績をおさめた学校賞に、魚沼市立湯之谷小学校、新潟県立燕中等教育学校、中央大学附属横浜中学校、神奈川県立七里が浜高等学校が選ばれました。今年度は、表彰式に受賞者の校長先生が多く出席され、学校からも関心を持っていただいていることが感じられました。

宮柊二先生のご親族は、片柳草生さんご夫妻とお孫さんの宮恒平さんがご出席くださり、天気にも恵まれ、ホール満席の活気ある表彰式でした。

（真島陽子）